

平成28年度業務実績評価結果（項目別整理表）

資料3(別冊)

・・・「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組(資料3 P7~P9)

< I-第1 教育に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P10~P15)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
21101	アドミッションポリシー の明確化(学部)	-	-	アドミッション・ポリシーの見直しについて、高等学校進路指導担当の教員から他大学と比べて分かりやすいと良好な評価を受けている立派な実践であるが、さらに理解されやすいアドミッション・ポリシーに改正していきこうと前向きに取り組んでいる姿勢は評価される。 また、県内高校に対する取組や情報発信等を積極的に行い、優秀な学生の確保に努めたことは評価されるが、今後は情報発信の方法をさらに検討するなど、これまでの取組からもう一步踏み込んで、さらなる県内出身の志願者及び入学者の増加を期待する。	○	
21102	適切な選抜の実施 (学部)	-	-	公立大学であることや地域の特徴を念頭に入れた特色ある選抜方法を工夫して行っており、県内高校生の受け入れ拡充に向けての努力は評価される。 近年入試を取り巻く環境の変化は著しいことから、大学の理念にあった入学生獲得に向け、データ分析等をより積極的に行うなど、今後も油断することなく、謙虚な姿勢を堅持し、継続した努力を期待する。	○	
21103	高等学校との連携 (学部)	-	-	本学はこれまで県の教育委員会や各高等学校に直接出向き、高大接続を早い時期から積極的に進めてきたこと、そして大学教育再生加速プログラムに高大接続事業が採択され、全国でも先駆的に進められ、一定の成果を出していることは評価される。今後も気を緩めることなく、前年度までの努力を堅持し、県内高校との連携、保護者や教員との交流を継続していただき、受け入れ先である医療機関との連携体制も強化していただきたい。	○	
21104	アドミッションポリシー の明確化(研究科)	-	-	看護学研究科の新ディプロマ・ポリシーの検討については、スピード感を持って取り組む必要がある。また、3ポリシーの広報の仕方にもさらなる工夫が必要である。		
21105	適切な選抜の実施 (研究科)	-	-	修士論文コースとCNSコースとの区別を明確化するカリキュラム改革や学内推薦入試の実施、連携協力協定病院及び行政機関に勤務するものを対象とした社会人入試の実施等は評価されるものの、特異な取組ではなく、依然として大学院入学者確保の取組が遅れているように思われる。 今後、大学院入学者確保の具体策にどこから着手するかを早急に打ち出し、定期的な制度の見直しと、検討を行っていただきたい。		○
21106	教育課程・教育方法・ 内容の充実(学部)	-	-	授業単位と時間数を整理して、自己学習時間を確保することは、時間を有効に活用し、大学が求めている能力を伸ばすためにはよいことだと評価する。しかし、学生がその時間を自己学習時間の確保に使わなければ意味がない。授業時間を減らし、効果的な教育を行うためには、並行して教育方法の検討、シラバスの提示の仕方、他領域との内容の確認など、教育側の多面的な評価や学生の自己学習時間の調査などを行うことに十分な注意を払っていただきたい。		○
21107	公正な成績評価の実 施(学部)	-	-			
21108	教育課程・教育方法・ 内容の充実(研究科)	-	-			

21109	公正な成績評価の実施(研究科)	-	-	学位論文の質の向上のための3つの改正点は、いずれも質の向上ではなく質の低下につながるのではない。 新しい論文審査方法について、審査委員になりうるができる教員数が少ない本学において、一般的に3人で組織される審査委員会のみで合否が決定される方法で論文の質の担保ができるか、今後慎重に運用いただくとともに、時間をかけた十分な検証が必要と思われる。		○
21201	授業の点検・評価	-	-	「授業改善等に関する報告書」を作成し、学内ホームページに掲載するなど、授業の点検・評価について、新たに取り組むことは評価できる。 「教員相互の授業点検評価」については、方法を変えていくことはよいが、評価者を1名にしたことによって、本来意図していた意味ある評価になっているのか疑問である。評価の目的が曖昧になり、形骸化する恐れがあるのではない。今後新たな評価方法に対する評価を、継続的に行っていただきたい。		○
21202	研修会等の開催	-	-	研究・教育コロキウムの方法を工夫し、参加者が増加したこと等は評価される。 カリキュラムを大きく変えていく中で、教育方法の工夫も多く求められるところであるが、その辺りの研修は十分であったか、また、FD研修会については、毎回参加者に偏りがいないか、全教員に対するFDになっているかに留意し、更なるFDの位置づけの強化と内容の充実を期待したい。	○	
21301	学習支援	-	-	平成27年度よりスタートした「学生相談制度」を平成28年度も継続したこと、また、学習に関する個別相談件数が1,008件と、前年度の719件と比較し大幅に増加したことは非常に高く評価される。 また、国家試験合格率向上のため、さまざまな工夫、取組により学習支援を行い、その結果、平成29年2月に実施された看護師等国家試験では一定の成果がみられた。特に近年やや不振であった保健師国家試験の成績向上は高く評価される。今後は学生自身がもっと主体的に取り組める方法や仕掛けについても、併せて検討していく必要がある。	○	
21302	生活支援	-	-	「大学生生活に関するアンケート」の結果で、「本学の学生支援制度」について数値目標を達成できたことは、前年度同様高く評価される。また、「大学への要望」欄の内容について、継続検討の必要があると結論付けているが、アンケート結果の学生への公表と要望に対する回答について学生に伝えていく必要がある。 学生のボランティア活動に関する意識の醸成には、教職員のボランティア活動に対する意識など、大学全体の意識の高まりが大きく影響するものと思われる。 なお、「ボランティア活動共有会」を開催して学生の意見を聞き、新入生オリエンテーションに繋げていったことは評価できるが、支援する教職員側の意識を高めていくことも併せて考えていく必要がある。公立大学協会が東日本大震災が発生した2011年以来、全国的に秋学期長会議で実施しているボランティア活動の学生交流会についても、注意を払っていただきたい。	○	
21303	就職支援	-	-	「就職説明会」については、平成28年度から新たに県・市町の保健師関係者の協力を得たり、4年生だけでなく3年生の参加を呼びかけるなど、さまざまな改善をした結果、参加者が増加し、アンケートにおいても高い評価が得られたことは、非常な前進であった。 また、その他の取組についても、継続して実施されたことは評価される。 なお、県内就職率向上のために、大学が場の提供に終わるのではなく、特に県内の病院のアピールの仕方については、病院側と事前に情報交換をするなど、充実した内容の提供ができるように工夫をしていただくとともに、どんな分野でどんな人材が必要とされているかなどの分析も行っていただきたい。	○	

計 14項目

7項目

4項目

< I - 第2 研究に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P16~P17)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
22101	研究活動の方向性	-	-	人事交流で助手として受け入れた連携協力協定病院の看護師との研究を継続させていること、県内医療機関との研究を発展させていることは評価できる。大学と連携協定を結んでいる病院数は増加しているのも、もっと積極的にこれらの病院との研究を進めていただきたい。 また、平成28年度の科学研究費補助金申請率を100%にするため、学内説明会を開催するなど、さまざまな方策によって目標を達成したことは非常に高く評価される。	○	
22102	研究成果の公表と還元	-	-	今年度も継続して教員の研究成果等の情報発信が拡大できたこと、公開講座などで県民への成果還元に努めたことは高く評価される。 紀要の公表場所の拡大が図られたことに伴い、紀要の内容の質を問われ評価されることであるので、紀要編集の委員会とも十分な連携のもと、質の高い紀要の発行を望む。	○	
22103	知的財産の活用	-	-	本学が保有する知的財産(心肺蘇生用足趾支持台)については、実用化に向けた試作に取り組み、現在試作第2号の効果等の検証を行っていること、その研究成果を発表するため、一般社団法人日本人間工学会との共同報告会や、三重県健康福祉部ライフイノベーション課や県内企業とも連携を図る活動を行っていることは、高く評価される。 今後はもっと県に協力を要請して、県内の関係機関とさらなる連携のもと展開して行っていただきたい。		
22201	研究活動への支援	-	-	若手研究者の支援として、外部講師による研修会の開催、研究支援に関する助手・助教のニーズ調査を実施していることは評価される。 ただ、調査結果から、研究実績のある教員からの指導を望む声もあり、他領域教員からの指導を受けられる体制が十分機能していないことが認識されているので、この点の解決のための努力を図っていただきたい。 今後、組織として若手研究者をどう育てていくのか、若手研究者自身の意識の問題についても併せて考えていく必要がある。	○	
22202	研究活動の評価と改善	-	-	自己評価と他者評価をしっかりと結合した研究活動の評価体制は非常に優れている。 年度初めと年度末に教員各自が研究活動について計画と評価を行い、学長面談をしているが、このことが教員各自の研究活動の改善に繋がっているのかどうか教員側からの評価を期待する。		
22301	研究倫理を堅持する体制	-	-	研究者及び卒業する学生双方にわたってしっかりした倫理審査体制が構築されていることは、高く評価される。 倫理審査委員の研修については、今後も継続して行い、その能力を伸ばし、スキルを磨いていく必要がある。 また、教職員に対する「研究活動における不正行為の防止等についての研修会」については、参加者の96%以上が「十分理解できた」又は「大体理解できた」と回答したことは、高く評価される。ただ、年1回理解できればよいというものではなく、さまざまな方法で反復して行っていく必要がある。	○	
計	6項目				4項目	0項目

< I - 第3 地域貢献等に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P18~P19)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
23101	地域貢献機能の充実	IV	IV	地域の看護教育研究拠点充実のための多様な取組、県内看護職の質向上に向けた教育支援の取組がしっかりと実施されていることは高く評価される。 研究支援の方法などは、その名称も含めてさらに多くの人に活用してもらえるような内容にするなど、さらなる工夫をお願いしたい。	○	
23102	多様な主体との連携による地域貢献の推進	IV	IV	多様で質の高い看護主体との連携を推進していることは、高く評価される。 認定看護師教育課程(認知症看護)の開設については、全国的に認定看護師教育課程(認知症看護)養成のニーズが高いが、他県の大学や他県看護協会において開講することの大変さから取り掛かれていないところが多い中、本学が開設に向かって準備し、入試まで行い、実際に動き出したことは全国的にみても高く評価できる。NHKテレビでも東海北陸各地で放映され、各方面に大きな影響を与えた。	○	
23103	地域住民等との交流の推進	IV	IV	本学が各地域に出向いて実施する教員の専門分野を活かした10件の出前授業は、2,400人に達する多くの県民の参加を得、参加者の満足度が高かったことは、注目される。 地域住民との交流推進のための教員提案事業が5件に達したこと、三重県総合文化センターで開催された「フレンド祭り」に沢山の県民が参加し、健康相談を有効に実施したことも高く評価される。 附属看護博物館の年間316組の来館者を得たことは高く評価されるが、認知度が低下しているように思われるため、今後は広報の仕方に工夫が必要である。 今後も地域住民の要望に応えられるよう出来る限りの地域貢献を行い、バランスの取れた事業運営が期待される。	○	
23104	卒業生への継続的教育	IV	IV	卒業生の離職防止を図るため、卒業生への継続的教育、連携の強化を図ったことは評価される。 また、卒業生就労状況調査を分析して卒業生への支援に活用していることは評価されるが、在学生のキャリアデザインや就職指導、学習指導などにも活用していただくなど、今後の有効活用が望まれる。	○	
23201	国際交流の推進	IV	IV	マヒドン大学、グラスゴー大学との交流事業を初め、平成25年度の教員活動評価・支援制度結果によるサバティカル・リーヴ決定者1名が、ハワイ大学において海外研修を実施したこと等は非常に評価される。 また、教員活動評価・支援制度以外の他の制度を活用して、教員が海外研修を積極的に行ったことも評価される。多くの教員が他の海外研修制度を受けやすくするために、制度の公表や研修後の大学へのフィードバックについてあらかじめ公にしておくことが大切である。 今後も積極的な国際交流により、本学の学生が異文化や医療制度の違いを知り、情報を共有することで 地域貢献へとつなげていただきたい。	○	

計 5項目

5項目

0項目

< II 業務運営の改善及び効率化に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P20~P23)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
31101	効率的で機動的な組織運営体制の維持	Ⅲ	Ⅲ	年度途中の学長兼理事長の交代という非常事態に直面したにもかかわらず、理事会、経営審議会、教育研究審議会がいずれも活動の水準を落とさず、また柔軟に対処して、平成28年度の業務の継続と平成29年度への継承をつつがなく行ったことは、非常に高く評価される。	○	
31102	戦略的な法人運営の確立	Ⅳ	Ⅳ	平成28年度は当該年度の大学教育をめぐる新たな政策の導入、平成30年度を見通す文部科学省の新たな「高大接続改革実行プラン」の検討が急速に進んだ重要な時期であったが、経済的に特に厳しい学生に対する支援のための基金の設置を決定するなどの施策を的確に行なったこと、また、公立大学としてのあり方を検討するために公立大学協会が設置したワーキンググループに本学の理事が引き続き参画して情報収集を行ったことはいずれも高く評価される。 また、入試改革や大学教育のあり方を含めた高大接続の見直しに的確に対応できるよう、事務局の組織体制を見直したことは、前向きな姿勢として評価されるが、組織体制の見直しについては、組織上の混乱が起きないように、高大接続に見合った組織体制か否かの検証も今後お願いしたい。		
31103	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	内部監査の企画監ポストを新設し、理事長直轄として独立性を強めたこと、内部監査の範囲を会計のみならず、業務活動全般まで実施したことにより、実効性の高い監査を行ったことは評価される。今後もさらなる充実を望む。	○	
32101	適切な人材マネジメントの実施	Ⅳ	Ⅲ	昇任基準についての見直しを図ったことは評価できるが、見方によっては、昇任基準を曖昧にさせ、外部から見ると不透明部分が多くなったのではないかと危惧する。今後も適切な評価基準、昇任基準で運営していただきたい。		○
32102	教員の確保	Ⅲ	Ⅲ	優秀な教員を確保するために、教員採用に関する情報を幅広く発信するとともに、多様な雇用形態を活用し、一定の教員数を確保したことは評価される。 今後は、基準を変えるだけでなく、全教職員が大学の評判を上げていくような取り組みを積極的に行い、外部からの応募者を増やすような努力や取組を考えていく必要がある。		
32103	事務職員の確保	Ⅲ	Ⅲ	長期的視点に立って、大学固有職員採用の評価をしっかりとっていただきたい。今後も優秀な固有職員の採用を期待する。		○
32201	教員の育成と能力向上	Ⅲ	Ⅲ	教員活動評価・支援制度の運用が改善され、サバティカル・リーヴ対象者が海外研修を実施し、また、三重県が実施している「三重県職員等の海外派遣研修」にも周産期看護分野の教員1名を派遣したことは評価される。ただ、教員数不足と授業実施の困難を考慮するあまり、制度そのものがあまりにも窮屈になっているため、海外・国内の長期派遣とも、もっと自由な条件で認めるべきであり、根本的な改革が必要である。 今後も研修制度については、継続的に見直しを図っていただきたい。		

32202	事務職員の育成と能力向上	Ⅲ	Ⅲ	「三重県立看護大学事務局育成支援のための評価制度」の着実な運営は評価される。 また、さまざまな研修に参加していることは評価されるが、研修効果が有効であったか否かの判断はすぐには難しい。具体的な評価方法や他職員への報告方法の検討などにも、今後取り組んでいただきたい。		○
32301	服務制度の充実	Ⅲ	Ⅲ	教員満足度については、前年度同様点数が低く、もっと早く対策を取るべきではなかったか。職位グループごとの変動要因のさらなる分析をお願いしたい。 職員満足度についても、教員満足度同様、評点が下がった項目の多面的な分析と具体的な改善策の検討を図っていただきたい。		○
33101	適正な業務運営	Ⅳ	Ⅳ	組織体制を変えることは効率的で効果的な仕事を行うため、必要性は理解できる。 3課体制から2課体制に統廃合することによる業務上のマイナス面までも含めたシミュレーションを十分に行い、その後の評価も継続的に行っていくことを期待する。		

計 10項目

2項目

4項目

<Ⅲ 財務内容の改善に関する項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P24)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
41101	自己収入の確保	Ⅳ	Ⅳ	施設の貸出、MCNレポート(大学広報誌)への広告掲載、認定看護師教育課程の入学検定料・入学金収入など、自己収入確保に対する多方面の努力は高く評価される。広告掲載については、今後も安定した応募が得られるよう積極的な募集を期待する。	○	
41102	外部資金の獲得	Ⅳ	Ⅳ	科研費補助金新規採択率が全国採択率を上回り、また外部研究資金申請率が100%を達成したこと等は高く評価できる。ただ、獲得件数、獲得金額ともに前年比減少しているため、今後も事務局の外部資金に関する情報提供と支援、そして教員の申請が一体となって進んでいくことを期待する。	○	
42101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	コスト意識の向上、経費の抑制を図ったことは高く評価できる。 省資源・省エネルギー等の取組は教職員のみならず、学生に対しても徹底的にまた意図的に環境教育を行いながら、併せて経費抑制を考えていくことが必要である。電気料金のみならず、水道、ガス等も情報を収集し、低コスト化に向けた意識を持てるようにしていただきたい。	○	
43101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	修繕は早めの処置をお願いしたい。		
43102	資産の有効活用	Ⅲ	Ⅲ	地域のためにも、地方公共団体や県内の小中学校等に貸し出す場合は使用料を2分の1に減額していることは評価される。 本学の教員から大学に譲渡された発明(心肺蘇生用足趾支持台)については、平成27年7月に本学初の特許出願を行ったことも、追加特許出願とともに高く評価されるが、1件にとどまっているため、引き続き企業や行政との連携を密にして、継続、発展させていっていただきたい。		
計	5項目				3項目	0項目

<IV 自己点検・評価および情報の提供に関する項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P25)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
51101	自己点検・自己評価 の充実	Ⅲ	Ⅲ	順調に経過していることを評価する。		
52101	情報発信・情報公開 の推進	Ⅲ	Ⅲ	学術論文や資料の活用を促進するため、平成28年度に設立されたオープンアクセスリポジトリ推進協会への加盟を決定したことは、特異なことではないが、着実な努力として評価に値する。 今後も引き続きマスメディアによる情報発信を積極的に行っていただきたい。また、個々の論文の質的向上にも留意していただきたい。	○	
52102	個人情報の保護	Ⅲ	Ⅲ	順調に経過していることを評価する。 実習記録や実習場で知り得た情報の扱い、さらに情報の保管(USB)の扱い、SNSについてなど、細かな指導を丁寧に行き届けていく必要がある。		
計	3項目				1項目	0項目

< V その他業務運営に関する重要項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「項目別評価」への反映 (資料3 P26)	
		法人 評価	委員会 評価		重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
61101	教育環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	学術雑誌(和・洋)の購読の見直しについての真摯な努力は評価される。 1年単位で施設・設備の整備を考えるのではなく、大学全体の施設の中長期的な維持管理計画を作成しておくことが必要である。災害時の拠点施設にもなっているので、安全な施設・設備の意識をもって取り組んでいただきたい。	○	
61102	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	環境に配慮したさまざまな取組は評価される。		
62101	危機管理への対応	Ⅲ	Ⅲ	順調に推移していることは評価されるが、安否確認メールの発信後20分での返信率が低下しているため、危機管理意識の醸成をお願いしたい。		
63101	人権尊重の推進	Ⅲ	Ⅲ	人権環境講演会への教職員の参加は、参加者数だけでなく、参加している教職員メンバーに偏りがなくも分析しておく必要がある。 学生アンケートについては、今後も継続的に実施していただきたい。		

計 4項目

1項目

0項目